ROTARY CLUB OF HEKINAN WEEKLY

Rotary

碧南ロータリークラブ週報

第３０８４回例会 令和６年３月６日(水)

●会長 角谷 信二
●幹事 杉浦 栄次
●会場監督(SAA) 岡島 晋一

2023-2024 年度　国際ロータリーのテーマ

世界に希望を生み出そう

■例会日　毎週水曜日　12:30　■例会場　碧南商工会議所ホール
■事務局　碧南商工会議所内　〒447-8501　愛知県碧南市源氏神明町 90
TEL<0566>41-1100　FAX<0566>48-1100
ホームページ：http://www.hekinan-rc.jp
E-mail:info@hekinan-rc.jp
■会報委員　長田一希・牧野勝俊・杉浦秀延

●斉　唱

国歌「君が代」
ロータリーソング「奉仕の理想」

●四つのテスト唱和

●本日のお弁当

大正館

●本日のお客様

一般社団法人赤煉瓦倶楽部半田　理事長　馬場信雄様

会　長　挨　拶

角谷信二会長

皆さん、こんにちは。本日もご出席ありがとうございます。

今日のお食事ですが、多分お雛さんをお祝いしてということで、間違っていないと思いますけれども、吸い物でついたハマグリは 2 枚貝で、絶対に他の貝と合わないということで、娘が嫁ぐ時に永遠に結ばれるという願いを込めて、ハマグリをいただいたということだと思います。

3 月 3 日でございますけれども、市民駅伝大会ということで、当クラブの榊原健実行委員長さん、早朝より大変ご苦労様でございました。私自身も来賓ということでご出席をさせていただきました。総勢 91 チームということで、大変盛況の中に開催されたという印象がございました。私も若かりし頃と言いますか、消防団に所属していた頃に初めて駅伝大会に出場した訳ですが、その後、青年会議所だとかに入った時に走った記憶がございまして、計 4、5 回は参加をしております。5 コースに分かれて碧南市内をほぼ一周することになる訳ですが、私の運が良いのか悪いのか、ほぼ第 4 区ということで、誰もいない所を走っていたという記

憶がございます。ただ、最後に出場した時に走ったのは 5 区で、皆様に迎えていただいてゴールして駅伝が終わったということでございますが、本当によく走ったものだなぁということと、この中にもまだそういうチャンスがあれば、50 数年続いた大会でございますので、エントリーをされると良い思い出になるのかなぁと思います。

昨日、名古屋にお邪魔しまして、洋服屋さんに寄りましたけれども、今はネクタイの下を少し出すのがトレンドだということをオーナーが言っておられました。また、ファッションリーダーというものが地域におるということで、半田は加藤順三さんという方がファッションリーダーだそうでございまして、当クラブのファッションリーダーは、杉浦幹事か石川鋼勇君かなと思いますので、お 2 人の服装を楽しみに見ていただきたいと思います。

本日もよろしくお願いします。

幹　事　報　告

杉浦栄次幹事

幹事報告を申し上げます。

- ロータリーレートの変更でございますけれども、1 ドル 147 円から 151 円ということで、円安が進んでおります。
- ガバナー月信 3 月号掲載のお知らせが届いております。
- 西尾 KIRARARC より例会変更のお知らせが届いております。
- ロータリー囲碁同好会より「第 22 回 RI 台湾囲碁大会」のご案内が届いております。なお、大会参加はメークアップになります。
- 新しく入られました岡田竜治さんと三木信幸さんの名簿に貼るシールをお配りさせていただきましたので、よろしくお願い致します。
- 例会で 3 月は移動等が沢山ありますので、ご確認をお願い致します。
- 3 月 13 日（水）は 16 日（土）が 65 周年記念事業ということになりますので、休会になります。16 日（土）は碧南市芸術文化ホールで行わせていただきますので、よろしくお願い致します。
- 3 月 20 日（水）は法定休日になります。
- 3 月 27 日（水）は慰霊祭ということで、会場が毘沙門天妙福寺さんになりますので、お間違いのないようによろしくお願い致します。
- 本日の例会終了後に理事会を行いますので、理事、役員の方は 201 号室にお集まりください。よろしくお願い致します。

委　員　会　報　告

＜出席奨励ニコボックス委員会＞

総会員数 63 名（内出席免除者 14 名の内出席者 9 名）出席者 53 名	
出席対象者　53／58 名	出　席　率　　91.38%
欠席者 10 名（病欠者 0 名）	

＜ニコボックス＞

角谷　信二君　少し寝不足ですが、本日も頑張ります。

木村　徳雄君　先週は、鈴木洋さんに卓話で大変私の事をほめてもらいまして、大変ありがとうございました。来期は私、ロータリー財団委員長を拝命していますので、私が皆さんにお願いしましたら、心よく「はい、よろこんで」と一言よろしくお願いします。感謝。

伊藤　正幸君
黒田　泰弘君　先日、平岩統一郎様に大変お世話になりました。楽しいひと時をありがとうございました。

榊原　　健君　第５１回碧南市民駅伝には、当クラブで角谷会長、長田商工会議所会頭、交通安全協会の鈴木会長には開会式に出席戴きまして、ありがとうございました。昨年より参加チームも増えて無事終了することが出来ました。又、当クラブからも御支援戴きましてありがとうございました。来年はもっと盛大に行いたいと思います。

岡本　耕也君　本日の卓話の講師、馬場信雄さんを紹介させて頂きます。

山口日出子君　先日、木村さん小林清彦さん、大変お世話になりました。ありがとうございました。

長田　康弘君　本日、長男が碧南市立南中学校を卒業いたしました。榊原靖浩くんの奥様の祝辞がすてきでした。

＜親睦活動委員会＞

会員誕生日

２日　杉浦　保子君　　１６日　黒田　泰弘君　　１９日　長田　一希君
２０日　長松　政孝君　　２１日　倉内　松雄君　　２２日　粟津　康之君

奥様誕生日

２９日　大竹　密貴君の奥様　　弥生様

結婚記念日

３日　亀山　晋次君・知美様　　１５年　　１６日　長田　和徳君・真由美様　３３年

入会記念日
　３日　杉浦　保子君
１５日　平岩統一郎君
２３日　鈴木きよみ君

クラブフォーラム

「誰一人、何一つ欠けても残らなかったであろう半田赤レンガ建物」

一般社団法人赤煉瓦倶楽部半田　理事長　馬場信雄様

馬場信雄様

　只今ご紹介いただきました一般社団法人赤煉瓦倶楽部半田の理事長をしております馬場でございます。どうぞよろしくお願い致します。

　本日はここに書いてございますように 100%に近いくらい壊されそうになった半田赤レンガ建物に関わりましてから今年で 30 年目にあたるんですけれども、今から振り返りますと、テーマにありますように「誰一人、何一つ欠けても残らなかったであろう」という建物でございまして、その経緯の一端を今日はお話しさせていただきたいなぁと思っております。

　今日は 3 つの観点からお話しします。まずは半田赤レンガ建物とはどんな建物なのかをご紹介させていただきます。私が 30 年間、まさに命を懸けて惚れ込んでいるような建物なんですけれども、その理由の 1 つが大きさでございます。全国の一戸立ちの赤煉瓦建物の中で、建物に使われているレンガの数が第 4 位なんです。因みに第 1 位は東京駅で、レンガの数は 833 万個、第 2 位は横浜赤レンガ倉庫で、レンガの数は 310 万個、第 3 位は札幌市にある旧北海道庁で、レンガの数は 260 万個、そして、半田赤レンガ建物が第 4 位で、レンガの数は 240 万個です。240 万個と言いましても、どんな大きさか想像できないと思うので、この図のように積み上げていったらどれくらいの高さになるかを計算してみました。皆さんは富士山より高いと思いますか？それとも低いと思いますか？正解は富士山の 38 倍の高さです。これほど巨大な建物なんです。

　では、具体的に赤レンガ建物のご紹介に移りたいと思います。ご存知の方も見えると思いますけれども、半田というのは 1500 年代に奈良から酒造技術が伝来しまして、日本酒造りが盛んになりました。江戸末期には統計によりますと、知多半島全体で 277 件の酒蔵がございました。その内の半数が半田でございます。ところが、江戸時代は栄えたんですけれども、明治になりますと、色んな要素が変わりまして、アゲインストになります。どんどん酒蔵は右肩下がりになってまいります。

　その中で江戸時代に栄えた醸造家たちは、新しい時代のビジネスに挑戦を始めます。その内の 2 人が今日ご紹介する半田赤レンガ建物、ガブトビール造りに尽力した人物でございます。1 人が現ミツカンの 4 代目社長の中埜又左衛門です。もう 1 人が盛田善平で、現 Pasco の創業者です。江戸時代にはビールはございませんので、明治になってから色々な弱小企業が全国に広がるんですけれども、最終的には淘汰されまして、大手 4 社（サッポロ、エビス、

キリン、アサヒ）に市場が占められるようになります。ほとんど市場が占められている中で、ちょっと無謀だと思うんですけれども、半田からこの 2 人がビール市場に挑戦を致します。そして作ったのが半田赤レンガ建物で、明治 31 年に丸三麦酒株式会社として、ビール醸造工場を完成させました。因みに資本金は当時の 60 万円で、現在価値だと約 30 億円です。2 人は 4 大ビールメーカーにとにかく勝つ為に当時のビール業界の最先端のドイツから建物の基本設計図、ビール醸造設備一式、そして、ドイツ人 2 人を連れてきまして、本格的なドイツビールの醸造を始めました。

建築物としての価値、重要な点を簡単に言いますと、

・現存数が極めて少ない「ビール工場の遺構」であること

・レンガ造り建築としては、日本で 5 本の指に入る「大きな規模の遺構」であること

・明治の 3 大建築家の 1 人「妻木頼黄の作品」であること

が挙げられます。

この建物で造られたのがカブトビールでございます。カブトビールの名前はいくつか諸説があるんですけれども、明治 27 年の日清戦争で日本が大勝しまして「勝って兜の緒を締めよ」という言葉が流行ったようでございます。そこから取ったという説が有力でございます。非常に赤い色をしているもんですから、当時は赤ビールと言われておりました。

さて、ここから本題の倶楽部活動のあゆみに触れていきたいと思います。この黄色でマークが付いている部分がお話の主点になります。昭和 18 年にそれまでずっとカブトビールを半田赤レンガ建物で造っていましたが、軍の命令によりまして強制的に操業終了になりました。その代わり中島飛行機製作所という会社の資材倉庫になりました。戦争が終わりまして、使われなくなっていましたところを日本食品化工という会社が買収し、操業を開始致しました。そして、平成 6 年に日本食品化工が操業を停止し、撤退するという新聞記事が出ました。その記事をきっかけに私の自宅に 1 本の電話が入りました。それは私の兄からで「半田にある赤レンガ建物が壊されるかもしれない。赤煉瓦ネットワークの関係者が半田へ行って価値を伝えたいので、お前はできる限り人を集めろ。また、会場の確保、懇親会の準備もやれ。」という内容でございました。当時、私は中埜酒造の創立 150 周年記念事業の責任者として大忙しでしたが、仕方なく駆けずり回って約 30 名の有識者・関係者の方に集まっていただきました。その中に後の半田市長になる方も見えました。

実は日本食品化工は撤退する際に売却先を探していたんですけれども、見つからずに土地として売るという方針に転換し、建物を壊し始めました。その時に私が一番綺麗だと思っていた部分が壊されてしまいました。これで全て終わったと思いましたが、全国の赤煉瓦ネットワークの支援の声に勇気付けられ、私も含め少数の仲間たちはあらゆるルートで市役所関係者に残してほしいということを訴えました。そんな中、当時の市長がこの声を聞き、半田の未来の為に購入を決断されました。つい最近わかったんですけれども、市長の決断の背景には我々の仲間で名城大学建築家の大学院生がおりまして、彼は以前赤レンカ建物を調査したことがありまして、建物の価値や魅力を熟知しておりました。彼は市長の親戚にあたり、どうやら市長に直接説得したようです。これが大きかったと思います。

市長が購入を決断した後も半田市民は買う、買わないで二分しましたが、最終的には購入

することになりまして、購入した以上は市民にどのように活用するのかを示す必要がありますので、有識者を含め幅広い人を集めて「検討委員会」を発足しました。検討委員会が終わる頃、半田市内の雰囲気は大半の市民及び議員は反対派が多数を占めておりまして、この流れではひょっとするとまた壊されてしまうかもしれないと危惧しておりました。検討委員会で活用案を考えた我々がこのまま解散してしまうのはしのびないと考えまして、有志を募って保存活動をすることにしました。そして「半田赤レンガ倶楽部」を発足させましたが、赤レンガ建物内へは入れない為、産業まつりなどに出店し PR を行いました。

潮目が変わりましたのは 2002 年でございます。この年に半田市が工場見学の名目で初めて公開することを決定致しました。初公開に向けて準備をする為に建物に入りましたが、荒れ放題で床のコンクリートが劣化し、掃いても掃いても粉塵が収まらないという状況でした。外は草が沢山生えておりまして、色んなボランティアの方にご参加いただいて、約 1 週間かかりましたけれども、清掃致しました。そして、ようやく初公開ということになりまして、2 日間で約 1 万人の方に来ていただきました。1 万人の方の声を聞いた時にこれで残ったなという気持ちが致しました。

次にカブトビールの復刻についてお話しさせていただきます。建物の公開が始まっても相変わらず反対派は多くおりまして、市長が交代すれば、また取り壊しの危機に陥るかもしれないという状況が続いておりました。その状況を変える為に半田赤レンガ建物の知名度を全国版にするべきと考えました。そうすれば、反対派も少なくなり、二度と取り壊されることがなくなると思いました。そんな中、2002 年頃に「2005 年に愛知万博開催・セントレア空港開港」の話題が新聞紙上を賑わしていました。これは千載一遇のチャンスということで、かなりの時間をかけて議論致しました。そして、出た結論が明治 32 年発売当時のカブトビールを当時のまま忠実に復刻できたら、ということでした。

我々の手元には文献資料は皆無で、アサヒビールに問い合わせたところ、文献がありまして提供していただきました。その文献をもとに最初にサッポロビールに製造を打診しましたが、すぐに断られました。諦めかけておりましたが、知多半島の内海で地ビールを製造している会社にダメ元でお願いに行ったところ、なんと快く受けてくれまして、復刻に繋がったということになります。そして、2005 年 6 月に復刻カブトビールを新発売しました。新発売の土日、各日 1500 本を販売し、10 時の開門前に約 450 人並んでおりまして、開門して約 10 分で完売致しました。その後、マスコミ各社に取り上げていただいたこともありまして、ブランドビールとなりました。

復刻カブトビール発売に際して、倶楽部なりの販売戦略を考えました。

1. 建物公開時にのみ販売すること、建物以外では一切小売販売しない
2. 建物の本格活用の為に売上金の一部を赤煉瓦基金とすること

としました。これによって、多くの方々がカブトビールを求めて飲みに来られ、半田赤レンガ建物の存在が広く認められることになりました。それが 2015 年のリニューアルオープンに繋がったと思っております。

我々は将来に向けて色んな活動をやっているんですけれども、これからはもっと子供たちに赤レンガ建物の価値や魅力を伝えようと思っております。半田市には小学校が 13 校あるん

ですけれども、もう3年前から我々のメンバーが小学校に行って出前授業をやっております。それから、出前授業を受けた生徒たちに今度は赤レンガ建物に来ていただいて、建物見学をやっております。これを延べ70名くらいのスタッフを導入しまして、毎年の行事のように10月、11月にやっております。将来が楽しみだなぁと思っております。

ご清聴ありがとうございました。

次回例会案内

令和６年３月２０日（水）法定休日

令和６年３月２７日（水）１２：３０～（１２：２０までに集合願います）

慰霊祭　　会場：毘沙門天 妙福寺